

## <セッション>

### PFＤ 書籍発売のお知らせと PFＤ 作成のポイントについてのトークディスカッション

#### <質問 1>

PFＤ について学びたいと思っておりますが、本日紹介いただいた本と、清水さんの HP にある内容との違いは何でしょうか？本日の本にしか無い内容はどんなことがありますか？

#### <回答>

清水さんが様々な勉強会で口頭で補足した内容を追記しています。

紹介している本には、書き方のサンプルが多く掲載された内容となっております。付録としてゴールから考える。組織標準からテーラリングする。を紹介しています。

#### <質問 2>

なるほど、PERT(Project Evaluation & Review technique)との差がそこですね。成果物とプロセスの定義書が肝ってことですね。

#### <回答>

ご認識の通りとなります。

PFＤ のダイアグラムだけですと詳細なシミュレーションすることは難しく、成果物定義書・プロセス定義書まで記載することが必要です。

ダイアグラム・成果物定義書・プロセス定義書の 3 つが PFＤ の肝となります

### <質問3>

プロセスが PFD どおりに実行されたことの確認は、どのようにしますか？

### <回答>

プロセスが PFD どおりに実行されたことの確認として SQA/PPQA グループの確認方法の一例を回答いたします。

CMM/CMMi の SQA/PPQA は、下記の品質の保証するグループです。

- ・ 策定（設計）されたプロセスが要求通りの成果物を作成することができるか、：プロセスの品質
- ・ プロセスが正しく実施されたか、：プロセス実行の品質
- ・ 成果物が要求通りのものか、：成果物の品質

ある人が実施した PFD（プロセス）を、第三者が確認する方法の一例を紹介します。

※策定（設計）された PFD が、機能的合理性と経済的合理性について検証されていることが前提です。（：プロセスの品質保証）

1、まずプロジェクト標準の PFD に記載されている成果物が全て作成されていることを確認します。

2、不足があれば、プロセスは正しく実施されていません。

不足がなければ、プロジェクトで使用された全ての成果物について、成果物のタイムスタンプなどを用いて成果物が完成した日時や入手した日時を確認記録します。

PFD に記載されているそれぞれの成果物を作成するプロセスが、担当者のスキルを含めプロセス定義書にあるプロセスの実施要件（実施条件・終了判定）を満たしていたことを業務記録などから確認します。実施要件が満たされていなければ、プロセスは正しく実施（実行）されていません。

3、成果物定義書とその成果物を作成するプロセス定義書から、その成果物を作成する工数を見積もります。

4、成果物作成に必要な工数と、成果物の作成された日時からその成果物作成に着手したであろう最遅日時を計算し記録します。

5、ダイアグラムから成果物の連鎖の順序を明確にします。

6、4、で計算記録した各成果物の最遅着手日時と、ダイアグラムから得たその成果物を作成するために必要な成果物を特定し、その成果物作成に着手した時に、作成に必要な成果物が使える状態にあった（作成されていた）か、を検証します。

7、6、が「NG」ならばプロセスは正しく実施されていません。

6、が「OK」ならばプロジェクトの実施開始日、成果物に関わった工数と投入された日時、および代案プロセス策定の有無などを加味し、それぞれの成果物の連鎖に齟齬がなかったことを確認します。

8、7、が「NG」ならばプロセスは正しく実施されていません。

7、が「OK」ならば、今回のプロジェクトで作成された全ての成果物について、成果物定義書とプロセス定義書から成果物定義書に記載されている通りのものであるかを検証します。

9、8、が「NG」ならばプロセスは正しく実施されていません。

8、が「OK」ならば、プロセスは正しく実施されたと見なせます。（：プロセス実行の品質保証）

10、最後に、最終成果物が要求に対してあっているかの検証を行い成果物（製品）が正しいことを確認します。（：成果物（製品）の品質保証）

PFD の 3 点セット（ダイアグラム・成果物定義書・プロセス定義書）があるのでこれが出来るのです。